

第 25 期（平成 31 年度）事業報告
（平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで）

事業活動に関する全体報告

開館 21 年目を迎え、公益財団法人としても 6 年目となりました。南魚沼市との間では、平成 25 年 12 月に締結した美術館の管理運営に関する協定書（期間は、平成 26 年〈2014 年〉4 月 1 日から平成 36 年〈2024 年〉3 月 31 日まで）に基づき年度協定書を交わしました。5 月 15 日には池田記念美術館において第 25 期第 1 回理事会を開催、前年度事業報告・決算が承認され、また、援助事業選定にあたっての選考委員会委員長に池田哲雄理事長が選任されました。6 月 14 日には第 25 期定時評議員会が池田記念美術館において開催され、前年度の事業についての報告、貸借対照表・損益計算書・財産目録の承認を得ました。また、全理事の任期満了にあたって、新たに以下の理事 9 名が選任（任期 2 年）されました。（なお、同日の「第 2 回みなし理事会」において池田哲雄理事が理事長として選定されました。）

池田哲雄（重任）、関 昭一（重任）、奥島孝康（重任）、石原和彦（重任）、
山中正竹（重任）、伊原春樹（重任）、山下泰裕（重任）、小泉 凡（重任）、
久保 博（新任）

次に、令和 2 年 2 月 28 日に開催予定だった第 3 回理事会は新型コロナウイルス感染症の予防対策として急遽中止しました。そのため、一般法人法第 96 条に基づく理事会決議の省略方法によって対処し、理事及び監事全員から第 26 期（令和 2 年度）事業計画及び収支計画につき承認可決されました。

公募によって募集した「環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業」については応募がなく、実施できませんでした。

美術館の運営に関しては、常設展示のほかに年間を通して企画展や特別展示を実施しました。以下、主な展覧会とイベントについて説明いたします。

①毎年開催している「八海山夢展」が 20 回目を迎えることができました。魚沼地域を中心に地元美術愛好家の作品（絵画・書道・写真・工芸・水石）を館内所狭しに展示する展覧会として長く愛されてきたイケビの顔ともいえる展覧会です。20 周年にあたり記念式典と記念誌を刊行しました。本展は南魚沼市内 3 社からの協賛金、南魚沼市補助金、地域コミュニティパイロット事業交付金を受けました。

②連続 3 回目の開催を迎えた「八色の森の美術展＋八色の森の子ども絵画展 2019」は全国各地で活躍する 35 人の現代作家の作品と、地元の小学生・総合支援学校の児童が出前授業（7 校で開催）で制作した作品を対等・平等に展示するという画期的な美術展として今回も注目され、基調講演会、シンポジウム、ワークショップなど多彩なイベントも開催しました。本展は

新潟県文化振興財団の助成事業に採択されました。また、新潟県出身でフランス在住の著名な彫刻家・原田哲男氏の彫刻展、車で寝泊まりしながら日本各地の風景を追う写真家として知られる佐藤尚氏の写真展を開催しました。

③障害のある人もない人も、芸術作品に直接ふれたり、さわったりできる美術展として開催した「ふれる かんじる 楽しい美術展」は、第34回国民文化祭・にいがた2019と第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の直轄事業として新潟県からの事業資金がありました。美術館の新たな活動として今後とも継続したいと考えています。

④県内在住の著名作家を紹介する展覧会として、宇賀治徹男氏（水彩画）の個展、高橋洋子・霜田文子さんの二人展、井口優氏（油彩画）の個展を開催しました。

⑤地域の交流と文化活動を促進するための企画として、「八海山夢展」のほか「南魚沼郡市児童生徒美術展」「魚沼ベストショット展」を開催しました。

⑥企画展とは別に展示スペースを用意し、特別展示として有沢昱由氏の日本画展、冬季特別展示として「錯覚展2020」と「NSGアートクラブ作品展」を開催しました。

⑦手づくりの雑貨市として毎年1月開催の「雪見展」は6回目を迎え、2日間で2,332人の来館者で賑わいました。

⑧八海山麓スキー場で4年連続となる「雪の錯覚すべり台」の制作披露は少雪と新型コロナウイルス感染症の予防対策で残念ながら中止となりましたが、明治大学特別教授の杉原厚吉先生監修のもと、タテ・ヨコ5方向の木製錯覚すべり台を南魚沼市からの補助金を利用してつくりました。地元の学校などから要請があれば、すべり台を運んで子どもたちに錯視の不思議な世界を体験してもらいたいと考えています。

⑨スポーツ関係部門では、各種スポーツカードの展示のほか、「上越沿線少年親善野球大会」、元中日・巨人の井端弘和氏による講演会、「南魚沼グルメマラソン」などに協賛しました。また、年3回（春・秋・冬）開催したスポーツカードショーには県外からも多数の参加者がありました。

以下は、公益財団法人移行後の入館者数、有料入館者数です。

	入館者（人）	有料入館者数（人）
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	10,101
23期（H29年度）	16,186	6,905
24期（H30年度）	16,193	5,681
25期（H31年度）	16,309	5,207

次に、公益財団法人移行後の事業収益の内容です。

	入館料	企画事業 収入	カード ショー収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	合計（円）
20期	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938		15,857,689
21期	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161		15,270,527
22期	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829		12,206,440
23期	3,789,970	1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996	8,866,627
24期	3,812,030	819,690	1,229,000	1,323,570	996,766	60,000	8,241,056
25期	3,722,840	4,383,974	1,121,400	2,982,806	758,410	6,000	12,975,430

第20期（平成26年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加。グッズや小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第21期（平成27年度）は絵画1点の委託販売料（224万円）と文化庁からの企画展助成金（333万円）があったため企画事業収入が増加しています。

第22期（平成28年度）は「錯覚展」がマスコミ各社に大きく取り上げられた結果、冬期間の来館者数・入館料が大幅に増加しました。小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第23期（平成29年度）は前期と比較して、1月～2月の豪雪・悪天候も影響したため、冬期間の入館者数と入館料が減少しました。

第24期はイベント時のスポーツウェア販売が落ち込んだため企画事業収入が減少しました。

第25期（平成31年度）の入館者数は前年度比100.7%、入館料は同じく97.7%でした。当初、「錯覚展」の開催によって冬期間の入館者数・入館料の大幅増を期待していましたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策で学校が閉鎖され、県内でも感染者が発生。家族連れや遠方からの来館者が激減しましたが、どうにか前年度並みに抑えることができました。企画事業収入が前年に比べて増加しているのは、「八色の森の美術展」記録集制作にあたっての協賛金・広告費収入、「ふれる かんじる 楽しい美術展」開催にあたっての新潟県からの援助などによるものです。また、売店収入の増加は小作品と画集の委託販売収入増によるものです。委託販売手数料は「ペーマガ米」の販売手数料です。なお、平成28年度から発行している年間パスポート（3,000円）の会員数は72人、平成30年度から新たに開始した法人パスポート（一口

10,000円)の会員数は15件です。同じく、喫茶収入を増やすために、平成30年度から始めたドリンクチケット(5杯つづり1,000円)は年間242枚の需要がありました。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業につき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

今期は応募がなかったため実施できませんでしたが、引き続き、ホームページや「イケビふれあい通信」などを使って募集に努めます。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

偶数年に募集する援助事業のため、今期の募集はありませんでした。

3. 美術館事業

1) 展覧会

① 宇賀治徹男 水彩画展―農村で見つめて50年―

■会期：4月6日(土)～4月23日(火) 16日間 794人

三条市在住で、示現会会員の宇賀治徹男氏の個展。自宅裏の信濃川の堤外地など、身近なモチーフと風景を叙情豊かに描き、長く示現会新潟支部会長を務めながら、出展を重ねてきました。今回の展覧会では示現会展に出品した大作を中心に、水彩画52点とスケッチ22点、計74点を展示。会期中、ギャラリートークを2回開催し、計84名の参加がありました。

② 既視から未視へ 高橋洋子・霜田文子二人展

■会期：4月27日(土)～6月3日(月) 34日間 1,326人

技法や型にはまらない表現を追求している高橋洋子さんと霜田文子さんのコラボレーション。高橋さんは銅版画と金属を合成した独特の手法による作品58点を展示。霜田さんは線香で線を引くバーントドローイングという手法で制作した5メートルを超える大作のほか、油彩画やボックスアートなど多彩な作品21点を展示しました。ギャラリートークのほか、ワークショップを開催、霜田さんはバーントドローイング、高橋さんは版画を担当しました。

③ 【特別展示】有沢昱由展―芸術・医学・宗教 三つの融合。―

■会期：5月25日(土)～7月15日(月・祝) 42日間 2,312人

南魚沼市で社会福祉事業を展開している社会福祉法人桐鈴会の創立20周年記念事業の後援

として二階の展示室Ⅱを貸出し、東京在住で日展審査員・準会員の日本画家・有沢昱由（いくゆう）さんの作品展を開催しました。医療の世界をテーマにした日本画を中心に仏画を展示したほか、北里柴三郎絵図伝のレプリカも展示。桐鈴会・北里保健衛生専門学院・当館が連携して展覧会を開催することができました。会期中は北里学院の学生が248名来館しました。

④ 47ぼくのより道 [同時展示] こころの故郷—魚沼の情景—

■会期：6月8日（土）～7月15日（月・祝） 33日間 1,975人

全国を車で旅する写真家・佐藤尚（たかし）氏の写真展。撮影で訪れた地域の人々と交流を深めながら、懐かしくほっとする風景を撮影する写真家として知られる氏の写真は、見ているものを和ませてくれると同時に、故郷を想う心を喚起してくれました。全国各地の写真60点のほか、写真家の「こころの故郷」でもある魚沼の写真20点を展示しました。

⑤ 第20回記念 八海山夢展 [同時開催] 第2回 八海山ジュニア展

■会期：7月20日（土）～9月2日（月） 40日間 2,795人

地元の美術愛好家を中心とした展覧会。絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門で作品を募集し105人が出展、作品数は121点となりました。20回記念事業として、祝賀会と記念誌を刊行しました。祝賀会には南魚沼市長や魚沼市長（代理）、南魚美術協会会長など関係者93名が出席、盛大な会となりました。記念誌には10回展からの出展者の作品を掲載しました。会期中、毎年恒例の“美のツボ”を開催。また、前回から始めた八海山ジュニア展は、子どもたちの作品を見るために家族が多数来館し、「子どもたちの励みになる」と好評でした。

⑥ 原田哲男彫刻展—有機の世界—

■会期：9月7日（土）～10月7日（月） 27日間 1,108人

原田哲男氏は新潟市秋葉区出身でパリを拠点に世界的に活躍する彫刻家です。自然をイメージの源泉に、日本とフランスの文化を融合させた彫刻を発表する一方、数々の公共モニュメントを制作する氏の彫刻家50年の集大成となる展覧会となりました。石彫の小品のほか、新たに取り組んでいるステンレスの大作など50点を展示。期間中、来日した原田氏は当館での展示のほか、新潟市での竹のモニュメント制作など複数の事業を同時進行で展開しました。ギャラリートークには新潟市など遠方からの来館者も多く、大変盛況でした。

⑦ ふれる かんじる 楽しい美術展 in 池田記念美術館

■会期：9月15日（日）～10月7日（月） 20日間 852人

第34回国民文化祭・にいがた2019と第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の直轄事業として県からの助成金がありました。「障害のある人もない人も、芸術作品に直接ふれたり、さわったりできる美術展」として開催。県内外から32名の作家が賛同・出品しました。特別に用意した暗室には作品1点を展示し、視覚に頼らず、手探りで作品鑑賞ができる空間をつくる一方、全盲の中学生によるピアノ演奏会、出品作家による楽しいワークショップ、ふれて感じる打楽器の演奏会を企画し、美術館の新たな可能性を提案しました。

⑧ 第3回 八色の森の美術展+八色の森の子ども絵画展 2019

■会期：10月13日（日）～11月30日（土） 42日間 1,776人

現代作家の作品と、地元の小学生・総合支援学校の児童が出前授業で制作した作品を対等に展示するという画期的な美術展として各所から注目される展覧会です。今回は全国各地から35人の作家が計102点の作品を出品し、地元の児童249人の作品258点と一緒に館内に展示しました。期間中、基調講演会、シンポジウム、ワークショップなど多彩なイベントも開催しました。本展は新潟県文化振興財団の助成事業に採択されました。

⑨ 池田記念美術館所蔵品展

■会期：12月6日（金）～12月24日（火） 17日間 377人

当館の特徴である、スポーツとアートと文学の融合をテーマに、所蔵品の魅力を紹介する展示を開催しました。海外作家は、ヴァシル・ストイロフ、ツルテム、リン・スターム・レヴィ、コヴァーチ・マルギットなど絵画・工芸など多彩なジャンルになりました。国内作家は、ラグーザ玉、高村光雲、川合玉堂など巨匠の小品を展示しました。また、新潟県出身作家のコーナーを設けて、良寛、會津八一、星襄一など当館が所蔵する代表的な作品を展示しました。

⑩ 第64回 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月6日（月）～1月21日（火） 14日間 3,583人

南魚沼市及び湯沢町の子どもたちの作品約500点を展示し、子どもたちの創作意欲が「いきいき」と伝わってくる展覧会となりました。本展は毎回、南魚沼市と湯沢町から補助金を得て入館を無料にしていることと、期間中に「雪見展」を開催することもあるため、大勢の家族に来館していただきました。対話型の作品解説会も開催しました。

⑪ 魚沼ベストショット展 Part IX

■会期：1月25日（土）～3月2日（月） 33日間 1,786人

県内外の写真家や写真愛好家45人と、特別参加の高校写真部生徒22人が参加しました。それぞれが魚沼地域の変化に富んだ美しい自然、風景、暮らしなど、自慢のベストショットを出展しました。9回目の開催で新しい参加者も加わり、写真教室には高校生も含めて37人の参加がありました。魚沼からのメッセージをより広く発信することができました。

⑫ 井口優絵画展 山と大草原に魅せられて—八海山と尾瀬、モンゴルを描く—

■会期：3月6日（金）～4月6日（月） 28日間 866人

若き日から越後三山、尾瀬に親しみ、近年はモンゴルの大草原にも足を運ぶ南魚沼市在住の画家、井口優氏の個展。氏の作品は地元で漉いた大沢和紙に油彩で描く独特の技法で知られ、八海山・尾瀬・モンゴルのテーマごとに作品54点を展示しました。オープニングイベントとして開催したギャラリートークとモンゴルの馬頭琴ミニコンサートには、60人の参加者がありました。

⑬ [冬季特別展示] 錯覚展 2020—杉原教授の不思議な世界—

■会期：1月25日（土）～4月6日（月） 61日間 2,652人

錯視研究の第一人者で、世界各地から展示依頼のある明治大学研究特別教授、杉原厚吉先生が制作した立体作品 50 点以上とタペストリー 20 点を展示しました。杉原先生は、鏡に映すと姿が変わったり、玉が坂道をのぼっていくように見えたりする錯覚という現象を、数学を使って解明しています。2 年ぶり 3 回目の展示ですが、今後は毎年、当館で「錯覚展」を開催していただけることになりました。

⑭ [冬季特別展示] MSGアートクラブ作品展

■会期：1月16日（木）～4月6日（月） 67日間 3,518人

MSGアートクラブは、南魚沼市立総合支援学校の放課後クラブとして、地域・保護者・学校の3つの力が結集して活動している美術集団です。支援者のモットーは「教えないアート活動」であり、子どもたちの主体性に合わせ、子どもたちが新しい経験を積み、自分に合った表現方法を発見するのを見守ることだけです。今回、アーティストのタマゴたちが制作した作品30点を展示しました。異彩を放つ作品には独自の世界観が反映され、「自己表現」することが彼らの未来を切り開く大きな力になっていることに気づかされました。今後とも応援したいと思います。

2) スポーツ関係展覧会

① ベースボールカード「2018 GENESIS」「2018 INFINITY」の展示（多目的ホール）

■会期：4月～7月

2018年の「GENESIS」や「INFINITY」を展示しました。

② 大相撲カードの展示（多目的ホール）

■会期：4月～7月

「97相撲錦絵カード」「2018大相撲カード RIKISHI」を展示しました。

③ オリンピックコーナーを特設（スポーツ文化展示室）

■会期：1月～3月

ポスターや東京オリンピックのトーチなどを増設展示（オリンピック終了までを予定）

4. スポーツ協賛事業

地域のスポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会参加等の形で地域のスポーツ交流の促進に貢献しました。

① 第70回ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2019年5月25日（土）～26日（日）

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、葉師運動広場、青島野球場、小出中学校

記念講演会：25日（土）18:00～20:00 元中日・巨人、井端弘和氏の講演と実技指導

② 第15回さわやかジョギング大会

日時：2019年6月2日（日）9:00～11:30

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 第10回南魚沼グルメマラソン

日時：2019年6月9日（日）8:00～15:30

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

※実行委員会に1名参加し、また出展業者として物販（ウェア、入館券、ラフカディオ珈琲）にも参加

④ 第12回八色の森健康ウォーキング

日時：2019年9月23日（月・祝）8:30～12:30

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

※運営役員として2名参加と物販（ウェア）

⑤ 第11回水無溪谷リバーウォーク

日時：2019年10月20日（日）8:00～14:00

主催：水無溪谷リバーウォーク実行委員会

会場：八海山麓サイクリングターミナル周辺特設コース

※運営役員として1名参加、物販1名参加

⑥ 八海山麓ホワイトカーニバル2020

日時：2020年3月1日（日）11:00～15:00を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策で中止となりました。

主催：八海山麓ホワイトカーニバル実行委員会

会場：八海山麓スキー場

⑦ 第13回八色の森公園子ども雪まつり

日時：2020年3月8日（日）9：00～15：00を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の予防対策で中止となりました。

主催：浦佐こども雪まつり実行委員会

会場：八色の森公園特設会場

5、収益事業

1) 売店収入

企画展、ワークショップなどとも連動し、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどをショップに飾り、売上アップを図りました。

2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を鑑賞しながら飲むコーヒーのおいしさをアピールし、リピーターからは「イケビの珈琲はほんとうにおいしい」と声をかけられています。2011年から、ジェラート、抹茶、冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を呼び起こしてきました。今後とも企画展に連動してコーヒーチケットを販売するなど、売上増を図ります。

3) スポーツカードショー収入

スポーツカードの展示（多目的ホールほか）と連動しながら、スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指して収益を拡大しています。

① BBM スポーツカードショー2019 春の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■日時：2019年4月7日（日） 10：00～15：00 参加38人

② BBM スポーツカードショー2019 秋の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■日時：2019年11月16日（土） 10：00～15：00 参加38人

③ BBM スポーツカードショー2020 冬の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■日時：2020年2月1日（土） 11：00～15：00 参加19人

4) 委託販売手数料収入

収益事業として「南魚沼産コシヒカリ」の販売に取り組んでいます。

6、その他

① 一箱古本市

■会期：2019年6月27日（木）～7月15日（月・祝）

■会期：2020年1月9日（木）～1月21日（火）

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。夏と冬に開催しました。出店者の個性が光り、本を介して出店者同士や来館者とのコミュニケーションが生まれました。冬の開催は入館無料の期間中となり、多数の来館者となりました。企画を通して、本に関わる文化の魅力を発信しました。

② 雪見展

■会期：2020年1月12日（日）～13日（月・祝） 来館者数：2,332人（2日間）

真冬のクラフトマーケット。地元を中心に、手づくりの雑貨や食品をつくっているショップや個人が集まり、自慢の一品を販売するイベント。手づくり品のワークショップ、リラクゼーションコーナー、デッサンコーナーなどもあり、美術館の枠をこえて、子どもから大人まで多数の参加がありました。